

## 会長あいさつ



瀬戸内三原 築城450年事業推進協議会  
会長 勝村 善博

平成29年は、小早川隆景公が三原城を築いて450年を迎えました。平成26年に14団体で構成する「瀬戸内三原 築城450年事業推進協議会」を設立し、行政と民間が一体となり、「観光のまち、三原」の実現に向け取り組みを進めてきました。

11月5日に、無事にクロージングセレモニーを迎えることができましたことは、本事業に携わった関係者の皆様及び市民の皆様のおかげと深く感謝しています。

本事業の果たした役割は、三原の礎を築いた隆景公の人物像などを紹介したみはら歴史館での史料展示のほか、隆景公に関する講演会や展覧会の開催、茶会などの文化事業を通じて、歴史・文化を再認識する機会となったこと、また、三原駅前市民広場を中心に開催した「みはらWEフェス事業」により、週末の駅前の賑わいづくりの場につながったこと、三原城跡歴史公園の整備と併せて、堀を清掃し、ブランド錦鯉を放流することなどにより、新たな観光名所の創出につながったことなどが挙げられます。

そして何より、市民の「地域の宝を磨こう」という機運が高まり、市民団体が自ら企画し、主体となって運営する市民活動チャレンジ事業が実施されるなど、新たな取り組みの契機となり、「郷土を愛する心、誇りに思う心」が育まれ、郷土愛の醸成へとつながったと確信しています。

この事業の成果を踏まえ、50年後の築城500年をめざして、長期的な視点を持ちながら、行政、企業、各種団体、市民が一体となり、まちづくりを推進することが大切であると考えております。

引き続き、皆様のなお一層のご協力をお願い申し上げます。

## 名誉会長あいさつ



瀬戸内三原 築城450年事業推進協議会  
名誉会長 天満 祥典

三原市はこれまで、長い歴史の中で多くの先人たちの知恵と努力により、進歩と発展を遂げてきました。

しかし、近年、少子高齢化、人口減少という社会構造の転換期を迎え、まちづくりにも大きな変革が求められています。

こうした中、市の重要な歴史文化遺産である三原城の築城450年という節目を大きなチャンスと捉え、市にあるさまざまな宝を磨き上げ、「交流人口の拡大」という命題に挑戦し、新たな三原を築くべく「三原の光を観よう、魅せよう」の指針に基づき、瀬戸内三原 築城450年事業を進めてきました。

「きてみて三原 石の上にも450年」というキャッチフレーズのもと、歴史や文化をはじめ、眺望やまちの魅力、最高の財産である人の魅力を活かし、多くの観光客に来ていただけるよう、プレ期間、メイン期間を通じ、主催事業、各種団体との連携事業、市民自らが企画・運営した市民活動事業など、行政と民間が一体となり100を超える事業に取り組み、築城500年に向けたまちづくり意識やふるさと意識の醸成につながったものと確信しています。

これも、本事業のために、ご尽力いただきました関係者の皆様及び市民の皆様の支援、ご協力のおかげと、深く感謝申し上げます。

今後は、事業で得られた成果を活かし、引き続き、行政と民間が一体となって「観光のまち、三原」を着実なものとし、市民の皆様からは「住み続けたいまち」、市外の方からは「行きたいまち」と思っていただけまちづくりに取り組んでいきます。